

今週（5月14日から5月18日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が380兆円台前半で推移する中、積み最終日となる15日を境に無担保コールO/N物の動向が大きく変わる展開となった。14・15日は積み期間の最終局面である為、▲0.04～▲0.035%を中心に底堅い展開となった。新しい積み期間となる16日は、資金調達サイドは限定的となり、地銀・証券業態を軸に▲0.07～▲0.05%まで出合いが低下し、初日から事実上の下限と目される▲0.086%をつけるなど弱含んだスタートとなった。無担保コールO/N加重平均レートは前積み期間は▲0.03%台で推移し、今積み期間は▲0.05%台から低下しての推移となった。ターム物に関してはロール案件が中心で、散発的な出合いにとどまった。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、18日に2W・8,000億円がオファーされ、応札額1,983億円（期落ち額1,802億円）となった。3Mの期日（期落ち額80億円）に対応する3M物はオファーされなかった。

●レポ市場

GC ON物は、週初は前週までの流れを引き継ぎ、▲0.07～▲0.05%程度の高めのレートで取引された。その後、積み期間の変わる5/16受渡以降の取引は、調達意欲が弱まった一方で、海外絡みと見られるキャッシュ潰しニーズが強まり、レートが低下した。玉手当てを目的としたGC取引では▲0.15%程度までレートが低下し、資金運用目的の銘柄後決めGC取引でも▲0.13%程度までレートが低下した。GCターム物も、週の半ば以降はレートが低下し、1Wから3Mで▲0.15%程度の運用希望が見られた。

SC個別銘柄では、10年の340番台に出難い銘柄が散見された。また、木曜日に入札のあった5年債は、入札前日は大幅にタイト化したが、リオープン以降は緩んだ。

●短国市場

今週の短国市場は、14日の短国買入オペやGCレポレートの低下などで需給環境が改善し、このところのレート上昇地合いに一服感が出るマーケットとなった。

14日に実施された短国買入オペは12,500億円でオファーされた。応札額は3兆3,982億円と膨らんだものの、平均落札利回較差+0.002%、按分落札利回較差±0.000%と落ち着いた結果となった。

17日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.14%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1391%、按分落札利回▲0.1371%と概ね事前予想通りのしっかりした結果となった。セカンダリーでは▲0.145～▲0.14%の出合いと堅調に推移した。

18日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.145～▲0.144%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1391%、按分落札利回▲0.1323%と引き続きしっかりした結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、償還総額3,200億円程度に対して、発行総額5,300億円程度となり、商社・小売業態から大型発行が実施された。全体的に小ロットの案件が中心となっており、市場残高は16兆円付近から目立った増減は見られない。発行レートについても、先週から大きな変動は見られておらず、概ね0%付近の決着が中心となっているものの、一部の希少な銘柄については▲0.010%台での決着も観測された。

CP等買入オペは15日に事前予定通りの2,000億円で実施された。前回のオペからそれほど期間が空いていなかったことや、ディーラーの売却ニーズの高い銘柄の採用が少なかったこともあってか、平均落札レートは前回比横ばいの0.000%、按分落札レートは前回から僅かに低下し▲0.007%の結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
5/14（月）	22,865.86	0.045	109.33	△ 0.034	△ 0.061	3,830,200
5/15（火）	22,818.02	0.050	109.70	△ 0.036	△ 0.084	3,838,700
5/16（水）	22,717.23	0.050	110.28	△ 0.055	△ 0.127	3,832,500
5/17（木）	22,838.37	0.055	110.36	△ 0.062	△ 0.135	3,836,000
5/18（金）	22,930.36	0.055	110.89	△ 0.064	△ 0.129	3,827,600

来週（5月21日から5月25日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/21 (月)	4月の貿易統計(財務省 8:50)				
5/22 (火)		20Y 10,000億円 5/23発行	交付税借入 10,500億円 5/30借入		
5/23 (水)	月例経済報告 (内閣府)				4月の米新築一戸建て販売件数 4月の英消費者物価指数
5/24 (木)	群馬県金融経済懇談会にて櫻井審議委員講演	流動性供給 6,000億円 5/25発行			4月の米中古住宅販売
5/25 (金)	5月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 44,000億円 5/28発行	交付税借入 10,500億円 6/4借入		4月の米耐久財新規受注 1-3月期の英GDP改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/21 (月)	700	▲ 4,000	▲ 3,300	全店共通 CP買入 国債補完 国債買入	▲ 1,900 ▲ 400 500	2,000 10,400	10,600	7,300	TB3M発行▲44000償還44000 TB1Y発行▲21000償還12800 変動15Y償還3500
5/22 (火)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	エネルギー対策借入▲8000期日7000
5/23 (水)	▲ 1,000	▲ 12,000	▲ 13,000				0	▲ 13,000	20Y発行▲10000
5/24 (木)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	交付税借入▲10500期日10500
5/25 (金)	▲ 1,000	▲ 7,000	▲ 8,000				0	▲ 8,000	流動性供給▲6000 国有林野事業借入▲600期日500
週間合計	▲ 1,300	▲ 23,000	▲ 24,300	—	▲ 1,800	12,400	10,600	▲ 13,700	

5/21は日銀予想、5/22以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、国債発行に伴う不足日が多くなることが予想されるが、引き続き無担保コールO/N加重平均レートは弱含む展開と予想する。

レボ市場は、短国の入札や買入オペを経て、どの程度玉不足が解消されるかが注目される。

短国市場は、25日に3M物の入札が実施予定となっており、短国買入オペの動向を含め、底堅い地合いがどこまで継続するか注目される。

CP市場は5月下旬に入り、賞与や配当の支払いを控えた企業の調達意欲が高まることも予想され、動向が注視される。

主要なイベントとしては、23日に4月の英国CPIなどが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入